「積極的治療の中止を伝えられたがん患者及び家族への意思決定支援における看護師のジレンマ」へのご協力のお願い

代表者　所属：看護部 6 階西病棟　職名：看護師　氏名：小林　冴
共同担当者　所属：看護部 6 階西病棟　職名：師長　氏名：遠藤　壽美枝
所属：看護部 6 階西病棟　職名：看護師　氏名：大森　梨穂
所属：看護部 6 階西病棟　職名：看護師　氏名：西村　澪菜

1.　目的

近年、がんの治療法は急速に進歩し、治療の選択肢は広がっている。一方で、進行および終末期がん患者やその家族は、積極的治療の選択や中止、療養の場の移行、終末期の療養に関する意思決定を繰り返し求められている。(内藤ら, 2016)特に、徐々に体力が低下したり、治療効果が乏しくなった場合などに、積極的治療を継続するかどうかといった意思決定は、患者や家族だけでなく、医療者にとっても難しい問題となる。また、意思決定の困難さは、治療選択だけでなく、家族機能の変化、ライフスタイルや価値観の多様化などの影響も受けている。そのため、看護師は何が最優先されるのか、どのように対応するべきかという倫理的問題に直面している。

治療期最終段階は、家族への支援や患者と家族の対話が必要であるといえる。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、家族が病院に来院することが制限された。A 病院も、家族へのインフォームドコンセントが対面から電話で行われる機会が多くなった。そのため、インフォームドコンセント時に介入することや家族の反応を確認することが難しくなった。また、面会制限が行われ、患者と家族が面会できる時間に制限があり、看護師が対面で家族と関わる機会が減っている。2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行し、面会制限も緩和されたが、流行前と同様に戻っているとは言い難い。看護師が対面で家族と関わる機会が減り、経験知を上げることが難しい現状があると推察できる。

そこで、本研究では、積極的治療の中止を伝えられた患者やその家族の意思決定支援における看護師のジレンマを明らかにすることを目的とする。

2.　対象と方法

A病院 B 病棟で再発・進行癌患者及び家族の意思決定支援を行っている看護師。B 病棟師長に、B 病棟で再発・進行癌患者及び家族の意思決定支援を行っている経験年数２年目以上の看護師を推薦してもらう。推薦を受けた者の中から、研究協力の同意が得られた者を研究協力者とする。研究協力者の同意の上、インタビュー内容を IC レコーダーに録音し、逐語録を作成する。区切りコード化し、コードの類似性に基づいて整理し，カテゴリーを抽出しネーミングする。

3.　研究期間

医療倫理委員会承認後～2025 年 3 月 31 日

4.　調査票等

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させて頂きます。あなたの個人情報は削除後匿名化し、個人情報などが漏洩しないようにプライバシーの保護には最新の注意を

払います。

・年齢、性別、家族歴、既往歴、嗜好、診察初見など
・検査データ、画像データ、手術記録、病理記録など
・治療内容、有害事象など

5.　情報の保護

調査により得られたデータを取り扱う際は、被検者の秘密保護に十分配慮し、特定の個人を識別することができないようにします。

個人情報は完全に秘匿されておりますのでご安心下さい。もし患者様自身やご家族の情報が研究に使用されることについてご了承頂けない場合には研究対象としませんので下記までご連絡下さい。

津山中央病院　病院長　　林　同輔
連絡先：電話 0868-21-8111（　担当：看護部 6 階西病棟　小林　冴　）